

公園の風景

～ こんにちは、ミコアイサ ～

今冬、淡水池に白い鳥をみかける。羽衣が白いので遠くからでも良くわかる。双眼鏡で覗くと目の周りが黒い。きつめのアイラインを施した彼はカモ科ミコアイサ属のオス、ユーラシア大陸からのお客様である。以前はアイサ属のミコアイサと分類されていたが2012年からミコアイサ属として分類され、一属一種となっている。



「白い衣を着て目の周りに黒い入れ墨をした巫女」の姿に似ていることからの命名らしいが最近（防府天満宮などで見かける）の巫女さんとは違うとの声も多く、目の周りの黒い模様から「パンダ鴨」という愛称のほうが親しまれている。

あまり頻繁には会えないトリ、冬陽の池で静かに遊ぶミコアイサに逢いに来ませんか。

～ 浄化機三台 ～

淡水池に浄化機が三台お目見えした。一昨年あたりから淡水池の水質が藻やアオコなどで悪化していた。公園では浄化剤を散布するなど対策を試みていたがその効果は一時的にすぎない。長期的な対策を模索中のところ、このたび宇部工業高等専門学校の教授が学生さんたちと考案された浄化機を設置されることとなった。モーターで濁った水を吸い上げ、ろ過するもので効果が期待される。



～ マリモ? ～

ビオトープの回廊の中ほどでアシ原の方を向き、眼下の水中に目を凝らすとソフトボール大でモスグリーンの球状の物が見える。マリモ? ではない。ニホンアカガエルの卵だ。

ニホンアカガエルは平素、明るい森林や沼池・水田の周囲の草むらに生息し1～3月ごろ他のカエルにさきがけて産卵を始める。繁殖が終わると再び5月ごろまで冬眠をするという面白いカエルだ。

一度に500～3000個産卵するが、近年は水路のコンクリート化や水田の減少など産卵場所が少なくなり成体の数も減ってきている。

